



日本飼養標準・乳牛(2017年版)

A4判 253ページ、CD-ROM付

価格:3,500円(税別)

※送料は実費ご負担願います。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 編

○主な内容

2006年版の発行以来、約11年ぶりの改訂となった本書は、昨今の酪農情勢を反映させ、泌乳持続性が高い乳用牛への改良の推進、生産コスト低減、飼料自給率向上の観点から、放牧の活用、耕畜連携等による稲WCS等の粗飼料、飼料用米の利用、未利用資源の利用推進、搾乳ロボットに対応した飼養管理技術などが記載され、より実情にあった内容となっています。

序章 飼養標準改訂の基本方針および本飼養標準の構成

1章 栄養素の単位と要求量

1. 1乾物摂取量 1. 2エネルギー 1. 3蛋白質 1. 4無機物 1. 5ビタミン

2章 養分要求量(I)

2. 1雌牛 2. 2種雄牛

3章 養分要求量(II)

3. 1水分要求量 3. 2無機物要求量

4章 養分要求量に影響する要因と飼養上注意すべき事項

4. 1雌牛の発育曲線 4. 2早期離乳と哺育期の飼養 4. 3育成時の飼養 4. 4初産・2産次の飼養 4. 5分娩前後の飼養 4. 6高泌乳期の飼養 4. 7双胎妊娠時の飼養 4. 8粗飼料多給時の飼養 4. 9暑熱時養分要求量 4. 10寒冷時の養分要求量 4. 11放牧時の養分要求量 4. 12ジャージー種乳牛の飼養

5章 飼料給与上注意すべき事項

5. 1第一胃内発行と飼養管理 5. 2飼料中の繊維 5. 3乳成分に及ぼす飼料給与の影響 5. 4地域資源の利用 5. 5ふん尿排せつおよびメタン放出の低減と栄養管理 5. 6安全な畜産物生産と飼料添加 5. 7代謝・栄養障害

6章 群飼と給与飼料中の養分変動

6. 1群飼による飼養管理技術 6. 2TMR給与飼料中の養分含量 6. 3既存の能力牛の栄養管理上のポイントと泌乳持続性 6. 4乾乳期短縮技術および分娩間隔との関係 6. 5日本飼養標準での泌乳平準化の考え方

7章 群飼と給与飼料中の養分変動

7. 1群飼による飼養管理技術 7. 2搾乳ロボットによる搾乳時の飼養管理技術 7. 3TMR給与飼料中の養分含量

8章 飼養標準の使い方と注意すべき事項

8. 1飼料成分の変動 8. 2飼料給与量に乗ずる安全率 8. 3飼養標準とコンピューター 8. 4添付ソフトウェアの利用法

9章 養分要求量の算定式

9. 1使用記号一覧 9. 2雌牛の育成に要する養分量 9. 3成雌牛の維持に要する養分量 9. 4妊娠末に維持に加える養分量 9. 5産乳に要する養分量 9. 6乾物摂取量の増加に伴う養分量の補正係数 9. 7養分要求量の算出例 9. 8種雄牛の育成における養分給与量 9. 9種雄牛の維持における養分給与量

参考資料 1 種雄牛の飼養と発育 種雄牛の発育曲線 種雄牛の飼養法

参考資料 2 資料成分表

申 込 書 公益社団法人愛知県畜産協会あて(FAX 052 - 968 - 2075)

(日本飼養標準・乳牛【2017年版】)

申込部数 : 部

注文年月日 : 年 月 日

ご注文者

住 所 : 〒 -

氏名または団体名等 : _____

[団体の場合] ご担当者 : _____

TEL : _____ FAX : _____

通信欄

